

府中市保育所父母会連合会資料（保護者意見） 平成24年12月8日まとめ

〈課題1〉保護者が考える「公立の役割」「公私の役割分担」とは？

- 「昨年の災害時、市役所と内線電話がつながっていることで、素早く安全確認が取れた」
→今後地域支援にさらに重点を置くのであれば、多くの人が関われる市の直営施設が各地域にあることでセーフティネットの役割を担う
- 府中市の保育の基準を示すのが公立の役割ではないか。
保育士の研修、交流の場を牽引するのが公立では。
- （前回の「役割分担」を受けて）公立は福祉的な面・私立はサービスなどそれぞれの方向に特化しすぎると、公立は何か事情がある人が行くところ、といった印象になってしまわないか？
例に挙げられていた障がい児や気なる子の受け入れも、公立だけが特化し、私立で受け入れが少ないままでは、その子たちは通う保育所を限定されてしまうことになる。
『福祉的な面』は公私とも拡充していく必要があるのではないか？
- 多様な保育サービスの提供について議論されているが、安易に拡大してよいものか？
延長22時までや休日保育など、制度があることで保護者の就労時間が長くなり、子どもに負担がかかる。
子どもの育ちを守るため過剰な利用を制限するなどの議論も同時に行うべきでは？

〈課題2〉地域の子育て支援のあり方とは？

- 近くに保育や母乳について相談できる人が常駐していて、毎日行ける場所があるといい
（国分寺の児童館や、目黒区保育所の月～土園庭・お部屋解放など）
- 新生児訪問の助産師さんに継続的に相談できたらよい
（もしくはその助産師さんを中心に地域のサークルなど紹介してもらえたら…）
- 決まった人がいて相談できると心のよりどころになる（場所だけでは不十分）
- ひろば事業は各施設（直営・委託）ばらばらに紹介されており、非常にわかりづらい。
自分の住む地域での情報を簡単にピックアップできたら良いのに…。
内容もあまり具体的に示されていない。HPでの情報開示など希望
- 市のひろば事業、月1回や年4回など実施回数が少なすぎる。小さい子こそ、急な体調不良などで行きそびれてしまいがち。
- （保育所利用以外の）特定保育・一時預かりは定員いっぱいまで断られるケースが多い。
実施率が定員に対し43%とはとても思えない。

◎あり方を探る上で、実際に在宅で子どもを見ている保護者や子育てサークル関係者に直接生の声を聞く機会は作れないのか？

◎待機児や認証園の保護者の声も聞いてほしい。市のアンケートは認可園のみで行われたので。

在宅の保護者はなかなか情報を集めにくい。今、検討協議会で保育行政が見直されていることはほとんど知られていない。検診の際や文化センターでチラシを配布したり、ポスターにするなど。情報を開示するのは市の努め。